

ふるさと狭山「ちょっくら来てくんろ」

文団連設立15周年記念 市制施行60周年記念

第15回 狭山市民芸術祭を終えて

15周年記念として狭山を満載にしようと取り組んだこの度の芸術祭。例年の展示関係の大作や、小ホール公演の内容に加え、ロビーに模擬店・ミニステージを設け、そこに客足を伸ばして頂けるよう二つの舞台公演の休憩時間をそれぞれ30分～1時間とし、更に抽選会を設けて模擬店で使える商品券を景品としました。

開催期間を通しておよそ3,500人のご来場者があり、会館全体が常に賑わいを創出。狭山の魅力を桜の花びらに書いて頂く参加型オブジェも関心を集め、模擬店の売れ行きも上々でした。また、一階の茶席も例年以上のおお客様の訪れがあり相乗効果を感じました。

公募作品では素晴らしい詩が寄せられ、また戦後70年に相応しい展示や公演、更には『気仙沼と共に歩む会∞さやま』のご協力で、舞台・展示とも昨年の鹿折小学校の修学旅行の報告があり、感動を呼びました。

企画公演は、1部で狭山の民話や歴史・歌を特集、2部では狭山出身の芸能人の出演で、来場者の満足度も高かったようです。ただ、企画公演のチケット販売は、会員各位の最後の追い込みで500枚は超えましたが、予定の700枚には及ばず、以前からの課題を手当て出来ないまま終えたことは、実行委員長の責任と考えています。



おりぴいも一緒に！

企画公演第1部5景「稲荷山さくら音頭」より

多様な仕事を成し遂げた各担当スタッフの大きな陰の力がありました。双方の皆様、大変お疲れ様でした。実行委員長として、紙面をお借りしお礼申し上げます。

また、多大なご協力を頂きました芸能人の皆様を始め、参加頂いた外部団体・店舗の皆様、そして何より、お寒い中足を運んで頂いたご来場の皆様には、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



コブシが見事に満開になった1階ロビーの迎花

実行委員長
文団連会長 横山美衣